

**井門正美著，三浦広久法的事項監修**  
**『役割体験学習論に基づく法教育－裁判員裁判を体感する授業－』**

磯 山 恭 子\*

2009年5月から、国民の司法参加を実現する制度である裁判員制度が開始した。このことを受けて、社会科授業において、国民の司法参加として裁判員制度の取り扱いに関心が高まりつつある。

このような背景のもとで、本書は、裁判員裁判を事例として、社会的実践力を培う法教育を提案するものである。本書の目的は、役割体験学習論に基づく法教育の提唱から、教師による意義のある教育活動の展開と、学習者の充実した学習活動の実現を支援し、学習者に社会で十分に活用し得る社会的実践力や法的実践力を培うことができる内容を提供することである。そのために、より多くの役割体験学習論に基づく法教育の授業実践例を提示し、それらの具体的な分析を行っている。

本書の構成は、次の通りである（節項等省略）。

- 第1章 役割体験学習論による法的実践力の育成
- 第2章 役割体験学習論に基づく法教育ガイド  
－裁判員裁判を事例として－
- 第3章 法曹三者と学生による裁判員模擬裁判  
の実際 －秋田大学の実践－
- 第4章 学生による裁判員裁判の授業  
－秋田市立外旭川中学校における実践－
- 第5章 インターネットを活用した裁判員模擬  
裁判－「ネット裁判員模擬裁判」での  
学び場を拡張する－
- 終 章 役割体験学習論に基づく法教育を！

さらに、各章の概要は、次の通りである。本書では、「本書の特徴」（4-6頁）に、本書の意味や全体像がわかりやすく提示されている。

第1章では、筆者が1998年に構築した極めて

オリジナルな『役割体験学習論』という教授学習理論を提案している。第2章では、秋田大学において2008年に実施した役割体験学習論に基づいた法教育の授業実践から、多様な学習活動を紹介している。第3章では、秋田大学において2006年に実践した「法曹三者と学生による裁判員制度の模擬裁判」を紹介している。第4章では、秋田大学教育文化学部の教師を目指す学生が、教師としての立場から実践した公立中学校での裁判員制度に関する授業を紹介している。第5章では、革新的なアイデアである「ネット模擬裁判員裁判」の開発を踏まえて、インターネット上での模擬裁判の実践を紹介している。終章では、役割体験学習論に基づく法教育の有効性を提唱している。本書では、法教育を進めるために役立つ情報の掲載や、DVDの付録といった工夫がなされている。本書では、「法教育実践において、現実における対象の理解や問題の解決のために役割体験が活用されるならば、知識と行為の統一的な法教育が可能になり、学習者の法的実践力を育成し、彼らが社会で自己実現を果たし、他者と協力してより良い社会を構築する社会的実践力を培うことができる」（241頁）と結論づけられている。

近年の法化社会の進展は、市民一人ひとりに様々な影響を及ぼしている。冒頭で述べた裁判員制度の導入も一つの表れであるが、むしろ、社会生活において、無自覚のうちに関与する法的な問題こそ見過ごすことはできないと考える。このような社会の変化から、今後ますます、市民として法的な関係の中でその問題を捉え直した上で、様々な法的な紛争解決に実体的に関与

\*静岡大学

しながら、一定の法理念や実定法を基礎に価値的な判断を下すという意識や能力の育成が求められている。これらのことから、法教育において、法的な問題に主体的に関与し、それらを具体的に分析し、他者との対話を行う場面のもとで、体験的な学習を構想するための有効な手立てを提案する本書の意味を高く評価したい。

本書は、役割体験学習論に基づき、法教育において可能な体験的な学習を分析しているところに特色がある。役割体験学習論は、「学習者がある役割を担うことによって、考察対象を理解し、問題を解決しようとする学習方法論であり、学習者の社会的実践力を培うべく知識と行動の統一的な学習を図るための理論」(12頁)と定義されている。法教育を通じて、学習者に实际的な技能を育成するにあたって、ふさわしい役割

体験を選択する視座が提案されている。

本書は、役割体験学習論に基づく法教育の構想を、実際の筆者の実践から得た豊富なデータに基づき実証することを試みている。役割体験学習論に基づく法教育の授業実践の成果と課題を明瞭に提示してくれているため、役割体験学習論に基づく法教育の授業実践を志す教師にとって重要な手がかりとなり得る。

裁判員制度の導入から2年を経て、裁判員裁判の事例もある程度増えてきた。このことから、裁判員裁判の成果と課題も、改めて再考していく必要性を感じている。法教育の授業実践を踏まえて提案される本書の役割体験学習論に基づく法教育から得る示唆は多く、社会科教育研究の進展に活用されることを期待したい。

(現代人文社、2011年2月刊、255頁、2,500円+税)